

校長室から応援メッセージ(4)

令和7年9月4日(木)

「未来の私は、今の私と共にある」

皆さん、こんにちは。今年の夏は記録的な猛暑となりました。皆さんはいかがお過ごしだったでしょうか。私は年齢とともに夏の暑さが身に伝わるのかと思っていましたが、暑さを感じる感受性も衰えつつあるようでトントンです。どうでもいい話で始めて失礼しました。それにしても、この暑さは9月に入っても納まる気配がありません。

それでも予定通り、来週月曜日から後期授業が始まります。夏を制した人も、制するのを遠慮した人も、大事な今はこれからです。皆さんは今、予備校という名の学校にいますが、この予備という言葉に惑わされてはいけません。これを何かのために準備する学校、と感じてしまうと、大切なものを見失ってしまいます。

私はその昔、予備校生、大学生として東京で5年間過ごしました。これは〇〇予備校の学生証に貼った写真です。当時の私は、遠い記憶の中に埋もれているのではなく、不思議なことに今も私と一緒にいると感じています。若い人に偉そうにしゃべってはいけない、と諭してくれます。その歳になってもよく頑張っているねえ、とねぎらってもらえます。

現在を生きるとは、過去とともに生きることなのではないか、と思います。現在という時間は幅がなく、一瞬で過ぎ去ります。今だ、と指し示した時間はすでに過去になっています。これが私、として捉えられる私は、全て過去の私、ということになります。過去の私は、見たり触れたりすることができません。匂いを嗅ぐこともできません。

ただ感じることはできます。感じるということは、たくさんの私が時間の経過に沿って遠くから古い順に並んでいるのではなく、いつの時代の私も同時に存在しているということです。人生の様々な場面に立つ私、その全てが私です。私は皆さんの目に見える形として、今ここに孤立して存在しているわけではありません。今の私は、過去の私と共にある…。だから孤独などということを恐れる必要はないのだ…。この理屈は私を限りなく幸せにしてくれます。

ここで少々余談ばくなるのですが、誰にも思い出したくない過去というのはあります。つらく悲しいこと、恥ずかしいこと。私にもあります。「過去の私と共に」ところか、すぐにも忘れてしまいたい、いつまでも引きずりたくない経験です。しかしそういう経験でも、時間の経過と共にその捉え方が変わってきます。若い皆さんにはまだ実感はないかもしれませんが、時間の経過というのは本当に偉大です。もしも、いつまでもつらいまま、悲しいままで変わらなかったら…。その場合は、最後の奥の手があります。それは、そんな経験にもかかわらず今の私はここにしっかり立っている、という覚悟をもつことです。そんな意味も含めて私は、「今の私は、過去の私と共にある」と言い切りたいと思います。

後期初めから個人的な、暑苦しい話になりました。暑苦しいついでに本日も垂れ幕を作りました。「未来の私は、今の私と共にある」。10年後、20年後、未来の皆さんは、今の皆さんと、どんな言葉を交わすのでしょうか。皆さんには、バラ色の人生を思い描くよりも、受験勉強に励む一日一日の自分を大切にしてほしいと思います。今日の私、明日の私、全ての私が総動員で向かうのが受験です。予備校の時間は、受験の本番なのです。

私は皆さんの健闘をひそかにこっそりとお祈りしています。以上です。

